

(1枚につき、5名様まで有効)

小杉放菴記念日光美術館

切り取ってご利用ください

特別企画

大人と子どもで楽しむ絵と音楽～えほんをたのしむ・えほんでたのしむ

美術館では、大人と子どもが一緒になって、絵と音楽の世界に親しむ講座を開催しています。今回は「絵本」をテーマに、展覧会「絵本の系譜Ⅲ 語る・伝える・絵のチカラ 宮城県美術館所蔵絵本原画展」を楽しみながら、絵本の世界を音と体で表現します。小さなお子さんにもできる工作も行いますので、ご家族そろってぜひご参加ください。もちろん、大人の方だけの参加も大歓迎です。



山脇百合子「ぐりとぐらのあいうえお」
福音館書店

Illustrations © Yuriko Yamawaki 2002

と き：10月22日(土) 午後3時～4時30分
講 師：宮地ゆみ氏(ピアニスト)・当館学芸員
参 加 料：300円
定 員：30名(先着順)
参加方法：美術館へ電話で申し込む

◆展覧会「絵本の系譜Ⅲ 語る・伝える・絵のチカラ 宮城県美術館所蔵絵本原画展」

会 期：10月22日(土)～12月4日(日) ※会期中は無休
開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
入 館 料：一般…700(300)円、大学生…500(200)円、高校生以下…無料
※()内は市民割引券を利用した際の料金です。



小杉放菴記念日光美術館

参加者の声

公民館の教室・講座紹介

⑥気軽に始めるコケ玉教室(今市公民館)

今市公民館のコケ玉教室は、5月～11月の毎月第3木曜日に中央公民館で開催しています。参加者は13名で、毎回好きな草花を持ち寄ってコケ玉を作ります。コケ玉コーディネーターの福本元さんが講師を務め、コケ玉の作り方から管理の仕方まで分かりやすく指導してくれます。通常、コケ玉は土を丸めて草花を植え、その周りにコケを貼り、糸などで固定して作りますが、取材に伺った日は、園芸用の網と針金、ピンを使って制作していました。

介されいるのを見て興味を持ちました。自分で作れるとは思わず、買って飾っていました。が、広報紙で教室の開催を知り、すぐに申し込みました。Q教室の感想を聞かせてください。Aとにかく楽しいです。また、前回までに作ったコケ玉を持ってくと先生がアドバイスをしてくれるので安心です。Qコケ玉は、齋藤さんにとってどんなのですか。A癒やします。家にコケ玉があると心が和みます。水やりや日の当て方を自分なりに工夫してコケが青々としているのを見るとうれしくなります。作品は、12月の今市公民館作品展で展示される予定です。



コケ玉教室の様子



講師の福本元さん 作品



すてきな作品が出来上がりました

歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1(今市図書館隣) ☎0285-6217
開館時間 午前9時～午後6時(入館無料)
休館日 毎週月曜日、祝日

移動博物館紹介 「戦中・戦後のくらし」

10月8日から県立博物館の資料を展示する移動博物館「戦中・戦後のくらし」を開催します。戦中・戦後、人々はさまざまな制約の下での生活を余儀なくされてきました。政府は戦費を捻出するため次々と国債を発行し、国民は、「お国のため」と信じてそれを買う国を支えました。一方、生活に欠かせない食料や衣料、燃料も配給制となり、さらに物資が不足してくると、生きるために必要な量を手に入れることさえ厳しい状況となりました。そしてこの状況は、戦後も数年間続きました。この展示は、国債の発行から読み取れる当時の財政問題や国民生活、新聞をはじめとするメディアが当時の状況をどのように伝えていたかを振り返るとともに、現代の国家財政の問題や世論を形成する私たち自身の姿を、いま一度考えてみようとするものです。



戦時貯蓄債券

現代を生きる日本人は、戦中・戦後のくらしから何を学び、そして今をどのように生き、後世に何を伝えてゆくべきなのでしょう。これらについて、皆さんと一緒に考えたいと思います。

◆催し ◆移動博物館「戦中・戦後のくらし」
10月8日(土)～11月27日(日)
◆移動講座「戦中・戦後のくらし」
10月29日(土)午後1時30分から
※詳細は、情報ナビ(27ページ)をご覧ください。

市民文芸

川柳 選者 日野原元児

特売のチラシに負けたダイエツト 渡辺春男
お前もか蛙にそつと話しかけ 新家 守
のんびりはさせない暇な人が来る 吉新勝夫
儲かった話聞いている招き猫 吉原一典
うそ少し隠してゴクリつばを呑む 福田英子
子離れの門を時々風が閉め 福田恒産
里の秋詩人にさせるものばかり 大橋芳明

俳句 選者 須藤火珠男

連山を眺めて終る予後の夏 白土武夫
曝書して青春の目を思ふべし 星野恒志
産土は父の眠れる花野かな 渡辺ミチ子
白萩のこぼるるほどに風の道 福田美代子
肩濡らす雨の庭先濃あじさい 徳本英子
新緑の森の深きにホーホケキョ 櫻沢総一
遠山の浮雲似合ふ晩夏光 松本武久

短歌 選者 阿久津伸一

カナカナの呼び合う樹々の間隔のほどよき距離に癒されていつ 名古屋佳子
朝刊に原発事故の余波しきり穂孕みし田に不安がよぎる 福田きくい
あるがままに色紙に滲む筆の跡愛しき人よ何処に在す 北崎 君
畦道を歩めば稲穂首垂れ案山子に母が重なり見ゆる 大森トミ子
沖縄の島唄を聞く夕立の通り過ぎたる庭眺めつつ 白土 武夫
漁り火が月の光に揺れてあつ夜釣りのしき最上の川に 赤羽根よ志
梅雨明けの大谷川公園そぞろ行き緑の風にしばし佇む 伊藤悦子

作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。応募先及びくわしくは秘書広報課 広報広聴係 ☎(21)5135 ㊟(21)5109